平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の 方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大 切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

- 2 調査期日
 - 平成31年4月18日(木)
- 3 調査対象

小学校 第6学年(国語,算数,児童質問紙) 中学校 第3学年(国語,数学,英語,生徒質問紙)

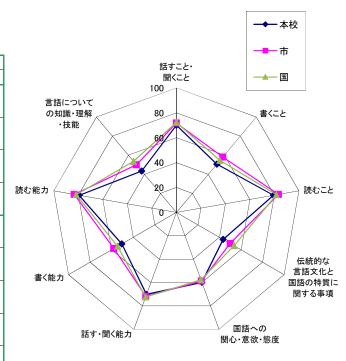
- 4 本校の参加状況
 - ① 国語 29人
 - 2 算数 29人
- 5 留意事項
 - (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
 - (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
 - (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

本校 市 国			+		
話すこと・聞くこと 70.1 71.8 72.3 書くこと 50.6 58.0 54.5 読むこと 79.3 83.3 81.7 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 43.4 50.0 53.5 国語への関心・意欲・態度 59.8 58.7 57.6 話す・聞く能力 70.1 71.8 72.3 読む能力 50.6 58.0 54.5 読む能力 79.3 83.3 81.7	分類	区分	本年度		
書くこと 50.6 58.0 54.5 読むこと 79.3 83.3 81.7 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 43.4 50.0 53.5 国語への関心・意欲・態度 59.8 58.7 57.6 話す・聞く能力 70.1 71.8 72.3 観点 書く能力 50.6 58.0 54.5 読む能力 79.3 83.3 81.7	73 /	E23	本校	市	玉
議域等 読むこと 79.3 83.3 81.7 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 43.4 50.0 53.5 国語への関心・意欲・態度 59.8 58.7 57.6 話す・聞く能力 70.1 71.8 72.3 観点 書く能力 50.6 58.0 54.5 読む能力 79.3 83.3 81.7		話すこと・聞くこと	70.1	71.8	72.3
等 読むこと 79.3 83.3 81.7 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 43.4 50.0 53.5 国語への関心・意欲・態度 59.8 58.7 57.6 話す・聞く能力 70.1 71.8 72.3 観点 書く能力 50.6 58.0 54.5 読む能力 79.3 83.3 81.7	領域	書くこと	50.6	58.0	54.5
国語への関心・意欲・態度 59.8 58.7 57.6 話す・聞く能力 70.1 71.8 72.3 書く能力 50.6 58.0 54.5 読む能力 79.3 83.3 81.7	等	読むこと	79.3	83.3	81.7
話す・聞く能力 70.1 71.8 72.3 書く能力 50.6 58.0 54.5 読む能力 79.3 83.3 81.7		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	43.4	50.0	53.5
観点 書<能力 50.6 58.0 54.5 読む能力 79.3 83.3 81.7		国語への関心・意欲・態度	59.8	58.7	57.6
点 読む能力 79.3 83.3 81.7		話す・聞く能力	70.1	71.8	72.3
		書〈能力	50.6	58.0	54.5
言語についての知識・理解・技能 イスイ 500 535		読む能力	79.3	83.3	81.7
日間に 207 (の 和戚 2主所 1文化 45.4 50.0 55.5		言語についての知識・理解・技能	43.4	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善		○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
分類•区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・ 聞くこと	正答率は、全国平均とほぼ同じである。 〇話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題では、全国平均を上回っていて、無解答者もいない。8割の児童が条件を満たして書いていると捉えることできる。 ●話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする問題と、目的に応じて、質問を工夫する問題では、3割~5割の児童が適切なものを選択することができていない。話し手の意図を捉え、自分の考えの共通点や相違点を整理しながら聞くことに課題がある。	・国語科の学習はもとより,他の教科や活動における話し合いの中で,掲示資料等を用いて話し合いのモデルを提示し,互いの考えや相違点を確認しながら話し合いができるように指導する。その際,それぞれの考えの根拠に着目できるようにする。
	て、無解答者もいない。7割の児童が書き方の工夫	・国語科の学習や読書活動の中で、自分の考えをまとめて書くことを指導する。また、国語科の学習だけでなく、総合的な学習の時間や他教科においても、文章を要約したり自分の意見を書いたりする活動を積極的に取り入れるようにする。
読むこと	読む問題では、全国平均を上回っていて、無解答者もいない。9割の児童が知りたいことを調べるために読むページとして適切なものを選択していると捉えることできる。	・物語を読む際に、全体の文章の中で登場人物の心情の変化を情景などの描写との関係を考えながら読むように指導をする。また、自分の考えだけでなく、友達の考えをよく聞くように促すことで、新たな気付きにつなげたり、考えをより深めたりできるようにするとともに、目的に応じて文章の内容を的確に押さえて書くことができるように指導する。

伝統的な言語文化 と国語の特質

に関する事項

正答率は,全国平均を下回っている。

〇ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる 問題では、全国平均を上回っていて、無解答者もい ることできる。

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中 で正しく使う問題と、文と文との意味のつながりを考 えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題で は、漢字を使って書き直すことに課題がある。また、 接続語を使って2文に分けて書き直す問題の正答率 は3割であった。文のつながりを意識して読むことに 課題がある。

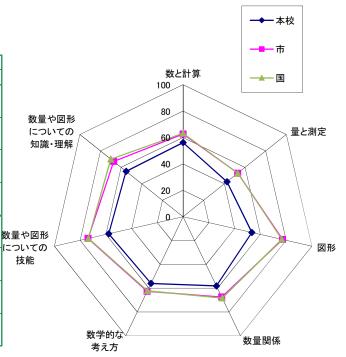
・既習漢字の確実な定着を図るために、「宮っ子学習ス テップアップシート」等を活用し、朝の学習や家庭学習の 課題等で、前学年までに学習した漢字の復習を繰り返し ない。8割の児童が適切なものを選択していると捉え|行う。また、文と文のつながりを意識して文章を読むように 指導する。

宇都宮市立城山東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
刀块	7.		市	国
	数と計算	56.2	62.7	63.2
領	量と測定	42.5	52.9	52.9
域	図形	53.4	77.3	76.7
	数量関係	58.1	67.4	68.3
	算数への関心・意欲・態度			
観	数学的な考え方	56.0	62.7	62.2
点	数量や図形についての技能	57.8	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	55.2	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

		○反対な状況が売られるのの ●味度が売られるのの
分類•区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○350—97について、引く数の97を100にして計算するときの数値の組み合わせを書く問題では、正答率が8割以上であった。 ○600÷15を計算しやすい式にして計算する問題では、7割以上の正答率であった。 ●加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題は、正答率が4割であった。 ●示された除法の式の意味を理解している児童は約4割であった。 ●示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び立式する問題では、正答率が5割となった。	確にしながら、文章問題に取り組んでいく。また、実生活に 生かせる場面を考えさせ、身近な問題として問題を捉える ように指導していく。
量と測定	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ●示された図形の面積の求め方を解釈し、説明する問題の正答率は3割に達していない。 ●2つの棒グラフからわかることを選び理由を書く問題の正答率は5割に達していない。 ●単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、結果を判断する問題の正答率は約6割であった。	・棒グラフの問題では、数字が何を表しているのか、2つのグラフがあることで何が分かるのかを明確にできるように、資料活用能力を身に付けさせていく。 ・単位量当たりの大きさはつまずきが多い。問題文中の基にする大きさは何かということを明確にし、立式できるように繰り返し指導していく。
図形	平均正答率は、全国平均を下回っている。 ○●台形の性質については7割以上の児童が理解 できている。しかし、台形を組み合わせてできる図形 を選ぶ問題では、正答率が4割以下であった。	・図形については、性質の理解をしっかりさせたうえで、その性質を利用しながら発展的な問題に取り組ませていきたい。また、実際に図形を紙で作ったり、動かしたりする活動を取り入れ、性質理解や組み合わせてできる様々な形の理解を深めていくようにしていく。

2つの棒グラフを比べて、何倍になっているかを答え る問題の正答率は約6割に下がった。また、その棒 数量関係

グラフから一人当たりの使用量を求め、正しい答え を選び、理由を書く問題については、正答率が約4 割という結果となった。

平均正答率は,全国平均を下回っている。

●答えに適した伴って変わる2つの数量を選ぶ問題 では約7割の児童ができたが、全国平均を下回っ

・資料を読み取る問題では、多くの情報の中から必要な情報を取捨選択し、解答に繋げる資料活用の技能が必要で ○●9割以上の児童が棒グラフから資料の特徴や 傾向を読み取ることができた。しかし、水の使用量の ある。問題で問われているこや必要な情報に線を引いて 答える指導を繰り返し行っていく。また、算数だけでなく、 どの教科においても資料活用の問題を繰り返し行ってい

> ・伴って変わる2つの数量を選ぶ問題では、時間や長さ、 人数などの多くの条件の中で、答えを見出すために必要 な条件を見つける問題に取り組ませていきたい。問題を解 くだけでなく,実生活に合わせた場面で考えるなど,より身 近な問題として考えられるようにする。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「ものごとを 最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」の質問に対し て肯定的な回答をしている児童が県の平均より多い。周囲の友達や家族に支えられて、児童の自己肯定感・自己有用感 が育ってきており、自分も周りの人の役に立ちたい、少し困難なことにもくじけず取り組んでいきたいという気持ちが育って いる。さらに自信をもって良いところを伸ばしていけるよう、指導、支援を続けていきたい。

○学校の授業に関する質問の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」では肯定的な回答が県の平均より多い。特に昨年度から研究している道徳では肯定的な回答が9割を超え、研究実践してきた効果が表れている。引き続き、考え議論する道徳の授業の研究を深め、児童を育てていきたい。

- ○●読書に関する質問の「読書は好きですか」には9割以上が肯定的な回答をしており、県の平均より高い。図書室に何度も行って本を借りたり読んだりしている児童が多い反面、ほとんど図書室を活用しない児童も3割以上いる。本が好きな児童に本の紹介などをする時間を作り、読書の楽しさがクラス全体に広がるようにしていきたい。
- ●家庭学習の取り組みについての質問の「家で計画を立てて勉強をしていますか」「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問に対して肯定的な回答が県や市の平均よりやや少なく、学習時間も市や県の平均よりやや短い傾向にある。自分で時間を管理し、計画を立てて学習できるよう、家庭との連携を図りながら指導していきたい。
- ●国語と算数について勉強は大切だと考えている児童が多いにもかかわらず、好きという肯定的回答は市や県の平均より少なく、国語は6割、算数は5割となっている。また算数に関しては「算数の授業の内容はよく分かりますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずいろいろな方法を考えますか」の質問に対してあてはまると肯定的回答をした児童は4割に届かなかった。習熟別学習を通して、児童の分からない点に寄り添い、丁寧に授業を進めていきたい。

宇都宮市立城山東小学校(第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

大学校主体で、単点を	直い (以り組ん ごいること	
重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習 の充実	・前学年までの「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施	・算数の計算の仕方を問う問題の正答率は、どれも7割以上であり、繰り返しの学習の成果が出ている。 ・国語の漢字の読み・書きでは、いずれの問題でも正答率が県の平均を下回っており、さらに繰り返し練習を行う必要がある。
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	・学び合い活動の日常化 ・学び合わせるための課題設定や発問の工夫・考えを書いてから話し合うなどの学習過程の工夫 ・ペアや少人数グループなどの学び合い形態の工夫 ・話し方・聞き方の段階的な指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用・本を介しての学び合い学習の実践	・国語の「話すこと・聞くこと」の領域の正答率は、 国の平均とほぼ同じである。話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題では、約8割が正答しており、無解答者もいない。 ・質問紙における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」では、肯定的な回答が県や国の平均より多い。特に昨年度から研究している道徳では肯定的な回答が9割を超え、研究実践してきた効果が表れている。

読書活動の推進	・各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用 ・家読の推奨・読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施・学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施	・質問紙の「読書は好きですか」には9割以上が肯定的な回答をしており、県の平均より高い。図書室に何度も行って本を借りたり読んだりしている児童が多い反面、ほとんど図書室を活用しない児童も3割以上いる。
実感を伴った知識を身に付けるための、作業的・体験的活動の充実	・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的な活動の充実 ・日常生活における身近な物を測ったり 身近な事象に目を向けたりする機会の設定	・算数の、加法と乗法の混合した整数と小数の計算をする問題は、正答率が4割であった。計算の仕方の理解にも課題があるが、整数や小数などの数の大きさの感覚をもつことも課題といえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

大子仪王仲じ、フ仮初だに	里点を唱いて収り和	16,-5
調査結果等に見られた課	題 重点的な	
国語における言語についての知解・技能の正答率は、5割に達してい。特に、漢字を文の中で正しく使に課題がある。	こいな の充実(言語に	ついての知 習ステップアップシート」等を活用し、朝の学習や家